

令和5年 湖西市議会12月定例会

市長あいさつ

令和5年11月29日

おはようございます。

本日から、12月湖西市議会定例会が開催されるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

いつまでも暑いと思っていたところ、急に冷え込むようになり、冬の到来を実感する時期となりました。

10月、11月には、各地区で秋祭りが開催され、数年ぶりに笛や太鼓、御神輿など、多くの笑顔が戻ってきました。県・市の指定無形民俗文化財として守り継がれている「流鏑馬神事」も無事再開され、地域の文化伝統行事が継承され、大変ありがたく、嬉しく思います。

さてこれから、新型コロナウイルス第5類感染症移行後、初めての冬を迎えます。例年は12月下旬から流行の兆しを見せる季節性インフルエンザが、本年は10月13日から注意報レベルとなっており、新型コロナウイルスとの同時流行も懸念されています。年末年始を控え、改めて、お一人おひとりが、体調や重症化リスクなど、基本的な感染防止対策を行い、体調管理にご留意いただきたいと思います。

（バッテリーロード開通）

9月30日には、大倉戸茶屋松線、通称バッテリーロードが、地権者はじめ地域の皆様のご理解とご協力、また、工事関係者の皆様の安全かつ迅速な整備のおかげをもちまして、無事開通いたしました。当日は、勇壮な遠州新居手筒花火、親子での、開通前の道路の自由散策、プライムアースEVエナジーの工場見学等、思い出に残る開通式となりました。

バッテリーロードにつきましては、皆様も幾度となく通られているかも知れませんが、BEV（バッテリーEV）の一大生産拠点、カーボンニュートラル発信の地として整備が進む「KOSAI バッテリーパーク」から、国道1号ICに向かう道筋、遠州灘を眼下に見渡す景色は、まさしく「持続可能な未来に繋がる道」と感じております。

道の果たす役割は、歴史的にも、単なる移動の手段だけでなく、まちと人、人と人をつなぐコミュニケーションの道として、産業の発展、地域の賑わい、そして災害時の広域避難経路として、命の道となります。

バッテリーロードが、新たな物流・人流、地域の交流の軸となり、持続可能な発展に繋がるよう、引き続き整備を進めてまいります。

（第 60 回豊田佐吉翁顕彰祭）

先月、10 月 30 日は、第 60 回豊田佐吉翁顕彰祭を開催いたしました。豊田章男会長からは「たくさん挑戦し、たくさん失敗し、たくさん勉強してください。それが、未来を拓く力になる」と、励ましのお言葉をいただきました。佐吉翁奨学金奨学生代表の色山輝（いろやま ひかる）さんからは、「心の障子を開け、新しい可能性にチャレンジし、強い人間になれるよう精進します」と、力強い誓いの言葉をいただきました。私からは、2 月 14 日にご逝去されました豊田章一郎名誉会長の「現地現物」に基づくチャレンジ精神、佐吉翁の「報恩創造」の精神を、本市のまちづくりに継承し、10 年、50 年先に向け「職住近接」の推進による持続可能な発展に尽くしていくことを、お誓い申し上げます。

（コーちゃん Pay・P-1 フェア）

6 月議会にて、エネルギー・食料品価格など物価高騰対策として、補正予算をお認めいただき実施しております、湖西市プレミアム付きデジタル商品券「コーちゃん Pay」につきましては、プレミアム率を 30%、コンビニエンスストアでの現金決済の導入、利用期間を 4 か月の長期とするなど、使いやすさを向上させて実施中です。5 千人を超える方々からお申込みや、昨年を上回る約 200 店舗のご協力をいただき、10 月 30 日からご利用いただいております。結果、好評により、多くの拡充ご要望をいただき、追加枠を設けさせて頂きました。年末年始のお買い物などにご利用いただき、お得に、地域経済の活性化に繋がるよう、進めてまいります。

また、昨年の「湖西市制 50 周年」を機に、静岡県内養豚飼育頭数 NO.1 の本市において、湖西といえば“豚肉料理！”と言われるよう、10 月 28 日から 12 月 3 日の間、湖西ご当地グルメプロジェクト「P-1」フェアを、市内飲食店 18 店舗のご協力をいただき、自慢の豚肉料理を提供していただいております。11 月 10 日には、「こさいの豚肉 P R 大使」の静岡ブルーレヴズから、日野剛志（ひの たけし）選手、槇瑛人（まき えいと）選手が、市内の湖彩（うみいろ）さんで自慢の豚肉料理を堪能し、盛り上げていただきました。豚肉は、疲労回復効果も高く、11/23 には湖西ポーク 10K g を提供し、選手のスタミナ源として、本日、選手寮の夕食で振舞っていただけると伺っております。シーズン中にもヤマハスタジアムで観戦者への豚肉プレゼント等、チームをあげてご当地グルメ「こさい

の豚肉」を盛り上げていただく予定です。美味しくお得に、そして楽しみながら、地元産品の消費拡大、地域経済の活性化に繋げていきたいと思えます。

（次世代を担う子ども達の活躍）

9月議会初日の挨拶でも申し上げましたが、次代を担う若い世代の活躍は大変心強いものです。例年行っておりますタウンミーティングにおいて、初の試みとして湖西高校・新居高校の生徒さんの参加をいただき、賑わいの創出、地域の活性化等について、自分ごととして捉え、積極的なご意見・提言をいただきました。

また、来月12月9日には、モノづくり人材の育成の一環として、昨年度実施したキッズEXP0の後継イベントとして、売るのも買うのも、小学生以下のこどもだけで行う「キッズフリマ」を開催します。

今週末12月2日には、恒例の「第24回しずおか市町対抗駅伝」が開催されます。今年は主将も高校生と若返り、小学生から社会人選手まで、日頃の練習の成果を発揮し、駿河路を笑顔でゴールへ駆け抜けていただきたいと思います。草薙の夢逸品市場では、きらく市による焼き牡蠣などもコロナ前のように復活します。ゼッケンナンバー「25」、みなさんの熱いご声援をお願いします。

スポーツといえば、今年5月、湖西市がジュビロ磐田のホームタウンとして周辺市町とともに認定され、多くのサポーターの方々とともにJ1復帰を願っていたところ、最終節の大逆転で念願のJ1復帰を果たしました。先ほどの静岡ブルーレヴズ、デンソーポラリス、三遠ネオフェニックスや、さらに新たな連携のお話しもいただいております、引き続き、スポーツで地域が元気になるよう、取り組んでまいります。

（むすび トピックス）

さて、直近のトピックスも何点か、
・11月10日、浜名湖パークビレッジのキャンプパークが、プレオープンしました。オートキャンプ、ドッグラン、足湯、カフェなど、来春の本格オープンに向け着々と整備が進んでいます。浜名湖花博2024と合わせ、環浜名湖観光、地域活性化の拠点となるよう、進めてまいります。

・浜松医療センターと湖西病院との間で締結した「持続可能な地域医療提供体制の確保に向けた連携協定」を機に、「正しく知ろう がんのこと」と題し、第1回浜松医療センター市民公開講座 in こさいを11月11日に開催しました。当日は、94人のご参加をいただきました。湖西市の死亡原因として一番多い「がん」について専門医から直接学び、ご自身の健康の維持・増進について考える良い機会となったとのお声もいただきました。市内・市外の医療機関の連携強化により、今後も健康増進、地域医療の向上に努めてまいります。

・また最近、各メディアで取り上げられ、持続可能な公共交通の手段の一翼として解禁の議論がされている「ライドシェア」につき、全国約250の首長有志の会である「活力ある地方を創る首長の会」と連携し、国・超党派議連などに対し提言活動を行っています。インバウンドの回復による観光地などでの需要の増加、人口減少や高齢化に伴うドライバー不足、過疎地域における通院・買い物などの「移動の足」の確保等が大きな課題である中、広域的な視点で交通事業者との共存共栄を基本とし、浜松市・磐田市と遠州鉄道の4者で、「持続可能な地域公共交通」についての勉強会を始めています。既に国でも、現行の道路運送法の柔軟な運用、免許要件の緩和、将来的な法改正による本格導入など、担い手増加に向け、スピード感を持った動きが見られ、地域の足としての手段・選択肢の増加による住民の利便性向上へ、引き続き広域連携して取り組んでまいります。

さて、今回の定例会に提案させていただきます案件は、条例の新設、補正予算など合計21件です。今年、2回目のメジャーリーグ・シーズンMVPを満票で獲得した大谷翔平選手は、「ハードルが高すぎると、目標が見えなくなってしまう。自分に届きそうで届いてない数字を目標にするのがベスト」と言っています。政策に関しても、理想と現実には常にありますが、現場や足元の数字に基づき、一つずつ、一歩ずつでも着実に「職住近接」の推進に繋がるものを、実現していきたいと思えます。

皆様方におかれましては、引き続き建設的かつ前向きなご提案やご議論をお願いし、私のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

(以 上)